

総合計画審議会委員からの意見 に対する市の対応方針（案）

総合計画審議会委員からの意見に対する市の対応方針（案）

No.	発言	該当箇所			委員名	委員意見	市の考え方・対応方針（案）	答申での文案
		資料等	項目	項番				
1	第4回	審議方法	-	-	出石	総合計画審議会やパブリックコメントなどを経て、行政案の「案」が取れると認識している。第2回会議では、本日の意見や質問を踏まえた第2次行政案（修正案）が示されるのか。本日の意見などを踏まえて、次回はこういった展開を考えているのか。	第2回会議の資料は、各委員からの意見や質問に対して市の現時点での考え方を一覧表として作成し、当日は資料に基づいて、その内容や回答結果に対する意見をいただくことを想定している。行政案は全ての審議が終了した後、審議会からの答申やパブリックコメントなどを踏まえて修正を行い、最終的に議案として市議会に提出する予定である。	（※審議方法のため取り扱わない。）
2	第4回	審議方法	-	-	出石	審議会での議論で、修正を求める意見が出る可能性もある。最終的な成案を得るために、修正を求める意見に対して、当該部分をこのように修正するというものが出て来るのか。	答申の方式は、第6次小田原市総合計画を策定した際と同様、行政案に対して、こういった視点で内容を改めるべきといったような提言書を想定しているが、総合計画審議会からの修正案を答申することも可能であり、審議会のご意向を確認し、対応したい。	
3	書面	行政案	全体	-	曾我	「誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと小田原」という都市像に向かい、小田原市のめざすまちづくりの最適な道すじの指針となるのが「小田原市基本構想行政案」である。資料に目を通した時の印象は「わかりやすい言葉で書かれている。」ということ。「すべての分野を網羅しなければならぬ」「市民のことを第一に考えている」「わかりやすい」この3点を考えると概ねこの案でよいと思っており第4回審議会に出された意見をもとに修正されるとよい。	第4回審議会や今後の審議会に出されるご意見を踏まえ、内容を修正する。	「小田原市基本構想」は将来都市像の実現に向けた小田原市のまちづくりにおける指針であることから、市民を第一に考え、全分野を網羅し、わかりやすい表現を心掛けた修正をされたい。
4	第4回・書面	行政案	全体	-	曾我	特定分野だけの視点ではなく、様々な視点を持つことで、相互の関連性が読み取りやすくなる。（概要版はわかりやすい）	ご意見を踏まえ、表記を検討する。	
5	書面	行政案	全体	-	渡邊（清）	行政としては「きれいで耳障りの言い文章」にとどまらず、より具体的な表現で、これからの小田原を担っていく世代へ向けて発展的な方向性を提案する基本方針を示していただきたい。市長が変わっても、地域課題についての表現が若干変わるだけで、20年後に市が元気に存続していくための施策は第6次の審議を行ってきた方向性で基本的な変更は必要ない。	おおむね20年先を見据える構想であることから、特定の事業名等は避けつつ、誰か読んでも同じ内容と解釈できるよう、より具体的な表現に努める。	可能な限り具体的な表現とすることで、小田原が目指すまちづくりの方向性を正確に共有することに努めていただきたい。これからの小田原を担っていく世代へ向けて発展的な方向性を提案する基本構想とされたい。
6	書面	行政案	全体	-	柳瀬	具体的な施策の内容は実施計画に落とし込むこととなるが、基本構想の目的は、市民が小田原の将来像をしっかりとイメージし共有していただくことである。現在の（案）では、文字が多すぎて読み手のイメージもバラバラとなり、市長が描く将来像がうまく伝わらない懸念がある。他の委員からも意見があったが、例えばネットのフリー素材を活用するなど、ビジュアル的な工夫ができれば効果的と思う。さらにハードルは上がるが、小田原ゆかりの画家や漫画家さんに協力していただき、何枚か挿絵的に入れ込むなどでもいいかもしれない。	おおむね20年先を見据える構想であることから、特定の事業名等は避けつつ、誰か読んでも同じ内容と解釈できるよう、より具体的な表現に努める。また、行政案では文字のみで表現しているが、基本構想の内容を周知する際には、文章を補完できる図やイメージ等を活用し、よりわかりやすい表現に努める。	
7	書面	行政案	全体	-	曾我	国や県との関係性の中に市があるため、「国や県の施策をもとに、さらに小田原としては、、、」と表現する必要はないか。	国や県の動向を注視しつつ、小田原市の立ち位置を考慮した構想とする。	国や県など外部との関係性についても示したうえで、小田原の目指す方向性を示されたい。
8	第4回	行政案	全体	-	出石	総合計画と総合戦略の関係はどうなるのか。多くの自治体が総合計画と総合戦略の扱いに困っている。他の自治体では計画と戦略を一体化している所もあるが、小田原市の考え方は。	現段階では方向性が確定していないが、令和7年度実行計画と整合する形で、総合戦略の一部改定する予定。また、次年度以降、第1期実行計画策定の際には総合計画の全体に手を付けるので、その段階で、総合戦略と総合計画を一体化するのか、新たな総合戦略に改定するのかを検討していく必要があると考えている。	総合計画と総合戦略の関係についても整理されたい。
9	第4回	行政案	時代と社会についての認識	-	出石	「基本構想は、おおむね20年先を見据え」とあり、文章ではこれだけだが、口頭の説明では目標年次を定めないと説明があった。これについては「目標を定めることが妥当ではないので定めませんが、おおむね見据えるのは20年先」などしっかりと示した方がよい。	ご意見を踏まえ、表記を検討する。	今回の基本構想においては、おおむね20年先を見据えたものとしているが、明確な目標年次を定めない旨も加筆されたい。
10	第4回	行政案	時代と社会についての認識	-	関	「地方分権一括法の施行を受け」とあるが、地方分権一括法の施行により、多くの決定権や主権が地方自治体に降りている中で地方行政のあり方や市民参加、市民一人ひとりの力がないと、まちづくりはできない。地方自治体が権限やまちづくりを進めるうえでのメニューを多く持っていることを認識していることは評価できる。	（「評価する」という主旨のため省略）	地方分権一括法の施行により、多くの権限が地方自治体に委ねられていることを認識したうえで、まちづくりの方向性を示そうとしていることは評価できる。
11	第4回	行政案	時代と社会についての認識	-	別所	いくつか課題を例示しているが、行政としてやらなければならないことと行政がコントロールができる範疇を越えているものが混在している。行政が取り組めるもののみを明記し、それに対して何をするのかということを書いた方が読みやすいのではないかと。また、「情報化が目覚ましく進展する中で、～人々の生活様式も大きく変化」というものについては、この場所ではなくて、前の段階に入れるべきではないか。	事象として存在し、認識している課題を列記しており、行政のみでコントロールはできない課題についても対応しなくてはならないことから、このまま記載したいと考えている。なお、記載の位置や表現の仕方については工夫したい。	課題の認識については、行政として対応し解決すべき事象のみを明記すべきである。
12	第4回	行政案	小田原の歩み～可能性と課題	-	関	小田原が未来に向かって進んでいくイメージやその可能性の書き込みが必要。もう少し小田原の良さを書き込んでいただきたい。	文章の中で、「1」や「2」は、これまでの振り返りとなっている。分量がある程度圧縮しながら要点をまとめることは事務局としても考慮したところ。小田原の可能性の書き込みについては検討したい。	小田原の良さに触れるとともに、小田原が未来に向かって進んでいく姿とその可能性について言及すべき。

総合計画審議会委員からの意見に対する市の対応方針（案）

No.	発言	該当箇所			委員名	委員意見	市の考え方・対応方針（案）	答申での文案
		資料等	項目	項番				
13	第4回	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	有賀	この基本構想のメインは「3. まちづくりの理念と将来都市像」であり、中でも将来都市像の「誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと小田原」は基本構想の要になっているが、この部分の書き込みが物足りない。5つの力とまちづくりの目標の関連や「地域自給圏」の詳細について補記し、もう少しイメージしやすい将来都市像とするべき。概要版を見ればわかりやすいが、将来都市像が伝わるインパクトのある基本構想になることを期待する。将来都市像に関する記載が最後の1行だけとなっており、ここの書き込みをもっと増やすべき。	基本構想行政案の文章をわかりやすくすることを目的に概要版を作成した。本文のインパクトが弱いのご意見を踏まえ、内容が伝わるように記載を工夫する。	基本構想という性質を考えると、個別の施策について触れないことは理解するが、小田原が進むべき方向性が誰にとっても理解でき、市民とともに将来都市像を育てていくため、可能な限り具体的な表現に努め、イメージしやすい将来都市像となるよう加筆されたい。
14	第4回	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	奥	「3. まちづくりの理念と将来都市像」が今回の基本構想の新しい部分であり、現行の基本構想と異なる部分となり、独自性を生み出せるところであるが、この文章ではどこが理念なのかかわからない。共通理念として何を打ち出すつもりであるのか文章からは読めない。	まちづくりの理念は、国全体での人口減少という現実を正面から受け止め、持続可能な地域社会を作ること、そのために「地域自給圏」と呼ぶべき地域社会の実現を目指すこと。将来都市像は「誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと小田原」である。この部分をはっきりしないのご意見を踏まえ、文章を見直したい。	
15	第4回	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	関	基本構想であるため、個別施策について触れないことは理解するが、現状では小田原が進むべき方向性がわかりにくい。特に将来都市像「誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと小田原」が抽象的である。市民とともにこの将来都市像を育てていくためには、もっと具現的なイメージや図表を掲げるなど文章を補うためのデザインが必要。	基本構想行政案の文章をわかりやすくすることを目的に概要版を作成した。ご意見を踏まえ、内容が伝わるように記載を工夫する。	
16	第4回	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	出石	目標人口を掲げないということも、明確に「第7次総合計画では目標人口を定めない」とははっきり書いた方が良い。	ご意見を踏まえ、表記を検討する。	目標人口を定めないことについて、明確に言及すべきである。
17	第4回	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	渡邊（清）	現市政では、農業復興を大きな柱の1つにするという話を聞いているが、小田原で暮らす人々が求めていることとピントがずれている。第6次総合計画における「人口20万」は、人口は減少していくが、生産年齢人口をなるべく減らさないために何をすれば良いのかということを実践したものとして捉えている。医療の現場では、介護する側の人は減り介護される側の人が増え、小田原だけでは人材が足りなくなる。こういったことも含めたまちづくりをしないと、どんな将来都市像を掲げても、そこにたどり着く前に力尽きてしまう。	人口減少自体は避けたいと捉えている。具体的な施策における人材不足といった課題の解決手段については実行計画で表現する予定である。	小田原で暮らす人々が求めていることを的確に捉えた基本構想とすべきである。
18	第4回	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	奥	小田原市の中で完結できるものはできるだけ完結させるという考えは、目指すべき方向性として良いが、実際に全てを小田原市の中で完結させることはできない。グローバル化が進んでいる中、国内外の人材やモノをいかに地域に取り込んでいくのかといった視点も必要であり、地域外の方との交流や共生の視点が重要である。全体的に内向き志向という印象を受けた。「地域自給圏」という表現は、自己完結型で全てを自分のところでできるようにするという誤解を与えかねないため、言葉を補うなどの工夫が必要である。	第7次総合計画は、社会増や出生増に向けた取組は進めるが、国全体で人口減少が進む中で、小田原の人口が増えるという目標が現実的ではないと考え、人口が減少する中でも、持続可能となる地域社会のコンセプトを「地域自給圏」と表現した。また、「地域自給圏」で表す関係性や範囲は、一定エリアの資源を生かす概念であり、地理的概念にとどまらず、他者との関係性や交流範囲などすべてを捉えている。要素や分野によって自治会区域内や小田原市内だけで達成できるものもあれば、県西地域の近隣市町や神奈川県など多様な主体と連携しながら達成を目指すものも考えている。	まちづくりの理念で示す「地域自給圏」がどういったものであるのか、自給対象や目標達成時の姿、外部との関係性などを明確にし、何をすることが求められるのかを明確にされた。また、読み手によって異なる解釈とならないような表現とされたい。
19	第4回	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	別所	持続可能な地域社会をつくる前提として、人口減少が避けて通れないことを正面から受け止めるという姿勢は理解できる。しかし「地域自給圏」というワードが突然出てくるため、これが一体何を指すのかということが分からない。自給対象が何なのか、その対象の自給率はKPIに設定できるのかということも前提で考えての方が良いのではないかと。また、「地域自給圏」が何なのかを明確にしてください、何を自給することが持続可能な地域社会につながるのか文章で読めるようになると良い。人口が減る中で、おそらく一番最初に直面するものはエッセンシャルワーカーの減少という問題である。小田原におけるエッセンシャルワーカーをどう定義し、その人たちが人口減少の中でどの程度減り、それをどう補うのかを考えていく必要がある。	事務局としても、内容を詰めないといけない部分であると認識している。小田原だけで食料自給率を100%にすることは難しい。何をどこまで自給するべきかを定める必要がある。ケアや医療において、エッセンシャルワーカーを含めた自給や、教育やインフラを自分たちでどこまで整えていくかを整理する必要がある。	
20	第4回	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	益田	「地域自給圏」に関する表現が、あまりにも理想的で、綺麗にまとまりすぎている。基本構想とはいえ、もう少し事実に即した文章としない、何をどのようにやるのかという部分が見えてこないで、書き方を考えていただきたい。	ご意見を踏まえ、表記を検討する。	
21	第4回	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	曾我	「地域自給圏」とは何なのかわからなかった。地産地消と違うことはわかるが、これからこの言葉でまちづくりを進めていくために、誰もがわかる表現としていただきたい。	ご意見を踏まえ、表記を検討する。	
22	第4回	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	出石	「地域自給圏」については、この表現のままだと民族自決権のように解釈されてしまうのではないかと。先ほどの事務局の説明では、小田原だけで全てをやり遂げるという考えではないと捉えた。そうであればその主旨をうまく書かなければいけない。	ご意見を踏まえ、表記を検討する。	
23	書面	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	曾我	「地域自給圏」については他の委員からの意見のとおり、基本構想を初めて読んだ時に「小田原としての地域自給圏」の考えがわかるような記載が望ましい。（それが概要版なのであれば、本文中で、もう少し詳しく触れることはできないか。）	ご意見を踏まえ、表記を検討する。	

総合計画審議会委員からの意見に対する市の対応方針（案）

No.	発言	該当箇所			委員名	委員意見	市の考え方・対応方針（案）	答申での文案
		資料等	項目	項番				
24	書面	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	久田	持続可能な地域社会の実現を目指す上で、人口減少が進むと市内で全てを賅うことはより難しくなっていくため、市内外問わず多様な関係性を構築し、市内に足りないものを補える体制や仕組みを整えることが重要になるのではないかと。また、「情報化が目覚ましく進展する中で、一人ひとりの個性を尊重し、様々な価値観を共有する多様性の時代…」については、その通りだと認識している。その上で、「一人ひとりの幸せや地域社会の真の豊かさを希求する」手段として「地域自給圏の実現」のみが掲げられていることは、閉鎖的にも感じ、選択肢が狭められている印象を受ける。市内に限ることで、受けられる支援やサービスの質が落ちることがあれば、個人の豊かさには繋がらないのではないかと。一人ひとりの幸せや笑顔を実現する上で、多様な選択の尊重は欠かせない。情報化が進み消費者の目がよりシビアになっている競争の中でも、小田原のものを選んでもらうためには、地産地消に限らず様々な魅力を高めていかなければならないと感じた。	「地域自給圏」においては、外部の力に頼る前に、まずはこの地域にある資源の力を最大限に活用することでまちの課題解決力やまちの魅力を高めること、そのうえで、市内外の新たな資本や人材も活用することを想定している。主旨が伝わるよう、記載を工夫する。	「一人ひとりの幸せや地域社会の真の豊かさを希求する」手段が「地域自給圏」の実現のみとなることは、閉鎖的に感じ、選択肢が狭められている印象を受けるため、多様な選択が尊重される方法を模索されたい。
25	第4回	行政案	まちづくりの理念と将来都市像	-	奥	5つの力+行政の力の6つの力は、第6次総合計画における推進エンジンにあたるようなイメージを持った。まちづくりの目標を達成するための、それを下支えするともに源となるような位置付けであると思えたので、そこをわかりやすく整理していただきたい。	まちづくりの目標と5つの力との関係も含めて、まちづくりの目標をどのように表現するかを改めて検討する。	「小田原が持つ5つの力+行政の力」の役割や「まちづくりの目標」との関係性を明記されたい。
26	第4回	行政案	まちづくりの目標	まちづくりの目標の全般	関	「3 まちづくりの理念と将来都市像」で5つの力に触れ、5つの力と行政の力を高めるとしている。まちづくりの目標も5つであり、5つの力とまちづくりの目標が連動していることが想起される。まちづくりの目標は分野横断的に掲げているが、できれば5つの力と行政の力を合わせた6つと連動し、都市像の具現化に向けて各施策を落とすため、まちづくりの目標を6つとしてはいいか。	5つの力は各目標に横串を刺す役割と捉えている。例えば「いのちを大切にす小田原」では、基礎的な部分は行政が制度として支えるため「行政の力」が必要となるが、「ケアタウン」という施策において、まち全体で支援が必要な人を支える仕組みがあり、「人の力」「まちの力」が必要になる。1つの目標に対して複数の力が作用することで目標を達成する考えである。	
27	第4回	行政案	まちづくりの目標	まちづくりの目標の全般	関	5つの力+行政の力の6つの力が、横串としてまちづくりの目標を達成していくことはとても良い考え方。このことがわかるような表現とすべき。「3 まちづくりの理念と将来都市像」と「4 まちづくりの目標」が連動できてない印象を受ける。「力」を土台として施策を展開することでまちづくりの目標が達成されるということがわかる表現になると良い。	まちづくりの目標と5つの力との関係も含めて、まちづくりの目標をどのように表現するかを改めて検討する。	
28	第4回	行政案	まちづくりの目標	まちづくりの目標の全般	出石	まちづくりの目標の(3)(4)(5)はそれぞれ2つの内容を述べている。修正方法の1つはそれぞれを分けることだが、細分化するデメリットもある。関連するところを括弧することは悪くはないが表現の仕方として、小見出しをつけるなど2つの構成要素があるということも明記してはいいか。ここは実行計画に繋がる部分であるため、わかりやすく整理した方がいい。	ご意見を踏まえ、表記を検討する。	まちづくりの目標においては、目標名だけでもその内容が明確となるような表現とされたい。
29	書面	行政案	まちづくりの目標	まちづくりの目標の全般	渡邊(ち)	まちづくりの目標について、施策とセットになることでわかりやすくなることとあるが、資料5のような図だけで伝えていくこと、「5つの目標」として単独で紹介する場面が多くなると思うので、目標単独でわかりやすいものにする必要がある。特に(3)(4)は、施策分野の縦割りごとにくっつけられた目標だが、目標としてまとめる以上は、いかにも縦割りのままではなく、両方の施策分野を包含する言葉で説明していただきたい。見た目の面でも「、」でつながれ、他よりもあからさまに長いことも気になる。また、目標の説明の中で「暮らし」が3つも出てくる。暮らしを大切にすることはわかるが、会議の場でも出たように、暮らしばかりに焦点を当てすぎる印象にもなりそう。あわせて、各目標の説明「～まち」は、行政案の中で各目標の説明をする部分であるが、目標「～小田原」そのものと同じことの繰り返しになっており、内容をイメージしにくい。もう少し具体的な説明を入れ、市民にとってどんな恩恵があるのか、その目標によってどんなメッセージを伝えたいかを、行政案の説明と合わせて整理いただきたい。上記を踏まえ、各目標は例えばこんなイメージだと伝わりやすいのではないかと。 1. 一人一人の「いのち」が尊重され自分らしく暮らせる小田原（「いのちを大切にす」は市や行政サイドの目線だと思う。市民目線では「大切にされる」ではないか。） 2. 自然環境の恩恵と豊かに調和する小田原（「恵みがあふれる」だけだと、環境に恵まれた小田原の客観的事実しか述べていない） 3. つながりの中で支え合い人が育まれる小田原（行政案を見ると、前段も後段も、つながりやすくながキーワードだと思うので、つながりでまとめるのはどうか。） 4. 多様な資源で経済文化が豊かに営まれる小田原（いずれも人・歴史・文化など多様な資源を活かす営みとのことであるので、資源でまとめるのはどうか。） 5. 安心な基盤の上に快適に暮らせる小田原（他に比べて短いので、安全安心の暮らしの基盤や行政基盤の要素を加えて少し長くしてはどうか。）	ご意見を踏まえ、表記を検討する。	
30	第4回	行政案	まちづくりの目標	まちづくりの目標の全般	別所	まちづくりの目標における(4)については、前段が産業、後段が文化の話になっているが、目標名だけでは文化の話になっていることがわからない。目標名に文化の内容を入れるか、別立てにするなど表現を検討いただきたい。	小田原における産業は、長い歴史や自然環境の中で育まれてきた文化の1つであるという捉え方をしているため1つの目標とした。目標名だけではわからないという指摘を含めて検討する。	

総合計画審議会委員からの意見に対する市の対応方針（案）

No.	発言	該当箇所			委員名	委員意見	市の考え方・対応方針（案）	答申での文案
		資料等	項目	項番				
31	第4回	行政案	まちづくりの目標	(1) いのちを大切に する小田原	渡邊(ち)	ここは内容が少ないうえに非常に抽象的である。おそらく福祉に関する部分が該当すると考えられるが、「いのち」となるとより広い概念である気もするため、他の4つと並ぶことに違和感を感じた。また、(1)と(5)の明確な違いも不明瞭であり、目標がこの5つで良いのかが気になった。	この部分では、福祉や医療、子育て、人権などの分野を想定している。人が生きていく上で最も基本的な部分をどう支えていくのかがテーマ。(5)安心して暮らすことができる小田原は、生きてく上での安心であり、防災や防犯、まちの基盤となる都市整備やインフラ整備など暮らしの部分の部分を想定している。	「いのち」は、すべての目標に関連するものであることから、まちづくりの目標からは外してはいいかがか。
32	書面	行政案	まちづくりの目標	(1) いのちを大切に する小田原	渡邊(ち)	「いのち」は「地域自給圏」のキーワードとしても出てくる言葉のため、すべての目標にかかる言葉だと思う。その「いのち」が個別目標の一つであるのはやはり、これが上位概念に見えてしまうようにも思う。「いのち」という言葉はあえて目標から外し、でも大切な言葉であるので、地域自給圏の説明の中でより強調して説明するの一手ではないか。	ご意見を踏まえ、表記を検討する。	
33	第4回	行政案	まちづくりの目標	(3) 未来を拓く 「人」が育ち、地 域の絆が結ばれる 小田原	内山	全体を見た時に「人」はどの分野でも大事である。まちづくりの目標(3)では、子どもたちの育ちはもちろん大事だが、人材育成という観点で少し不足していると感じた。産業においても人材育成は大事な部分であるが、(4)ではそういった内容に触れていない。ここで言う「未来を拓く人」とは一体何を指しているのか。「子どもたちが学びや育ちの中で多様な経験や交流を重ねることが「未来を拓く人」にどう繋がるのかがイメージしにくい。もう少し具体的に記載していただきたい。	ここでは、学校教育と社会教育・生涯教育を記載している。1つは、学校や地域での子育ての中で、子どもたちが充実した人生を送ることができる、自身が輝ける人生を送る。小田原では「社会力」と表現しているが、そういった力を持つことがまず1つ。そして、地域で自分の充実した人生を送ることができるようになった子どもや若者、シニアなど様々な人たちが生涯学習を通して社会で繋がり、そのことがまた地域社会を作る力を育むということが1つ。この2つを盛り込んで文章を構成している。伝わりにくいというご意見を踏まえ、検討させていただきます。	「人」はどの分野でも大事なテーマとなっていることから、子どもたちの育ちに加え、人材育成の観点についても言及されたい。また、「未来を拓く人」について、文中で書かれている内容と目標がどう繋がるのかを明確化されたい。
34	第4回	行政案	まちづくりの目標	(4) 地域経済が 好循環し、多彩な 資源が開く小田 原	関	文章としてはきれいにまとまっているが、具体的に何をどうするかが見えてこない。基本構想では具体的な施策は記載しないことは理解できるが、「農林水産業や商工業」という表現に、いま大きな比率を占めているサービス産業や新たな産業の視点が入っていない。あわせて近年ではA Iを含めた新たなテクノロジーが大きく花開いており、世界規模で社会や生活を大きく変えようとしている。こういった内容も文章で追加していただきたい。また「豊かな資源のもとに産業が育ち」とあるが、「豊かな資源」という表現が非常に曖昧である。この表現だと、緑や自然由来の資源という印象を受ける。人間が積み重ねてきたテクノロジーなどが重要であるため、しっかりと記載して欲しい。	現代の資源や新たな産業に関する内容の追加については、書き方とともに検討させていただきます。	サービス産業や新たな産業の視点、A Iを含めた新たなテクノロジーについても補記されたい。また「豊かな資源」という表現では緑や自然由来の資源という印象を受けるため、人間が積み重ねてきた文化やテクノロジーなどとわかるような表現とされたい。
35	第4回	行政案	まちづくりの目標	(5) 安心して暮 らすことができる 小田原	関	インフラだけでなく、これまで小田原市が取り組んできた市民参画の内容や市民が主体でまちづくりをするという最も根幹の思想についてもっと書き込むべき。	ご意見を踏まえ、表記を検討する。	インフラだけでなく、これまでに取り組んできた市民参画や市民主体のまちづくりという思想についても補記されたい。
36	第4回	概要版	-	-	別所	行政案における項目と、資料5で表現しているタイトル行が一致していないが、これは位置付けが違うのか、資料の作成の都合上、そうなっているのかどちらか。	資料の体裁における表現の違いであり、位置付けは行政案のとおりである。	(※審議会資料に関する意見のため取り扱わない。)
37	書面	概要版	-	-	渡邊(ち)	どの目標のことを言うのかが分かりやすい、伝えやすいよう、1～5と各目標に番号を振っていただきたい。	今後、概要版を使用する際には、行政案と同様の番号を振り対応する。	

総合計画審議会委員からの意見に対する市の対応方針（案）

No.	発言	該当箇所			委員名	委員意見	市の考え方・対応方針（案）	答申での文案
		資料等	項目	項番				
38	書面	その他	-	-	渡邊（清）	小田原という利便性を活用したまちづくりには、自然を生かした地域内産業活性化と中心市街地における近代都市化計画による郊外的な街づくりとの両輪が必要である。デジタル化は既に一般住民の中に浸透しており、次代を担う若年層は其中で育っており、いかに進化させていくかという段階。DXが苦手な50歳以上の人間が主導する旧態依然とした考え方は発展性が望めない。もっと若い世代の意見を反映し近未来的なビジョンを考えること、また小田原で生まれ育ち人生のほとんどを小田原で過ごしてきた人々も、発展的なビジョンを考える脳力が不十分だと考える。	第1期実行計画策定においては、より多くの方や幅広い分野・年齢層からの意見をいただく方法により意見聴取を実施する。	（※個別具体的な施策や取組に関する内容であり、主には第1期実行計画策定時に生かす内容と考えるため、取り扱わない。）
39	第4回	その他	-	-	木村	「コミュニティの絆がしっかりと結ばれ、地域の個性が発揮できる」とある一方で、地域コミュニティ活動の担い手不足や公共施設や学校施設の一斉の老朽化などの課題がある。地域コミュニティは、小学校を中心に動いている。新しい学校づくりを検討しているが、総合計画の策定期期を考えると、おそらく新しい学校づくりの本体よりも総合計画の方が先に策定される。総合計画に具体的な取組の内容がどこまで組み込めるのか。	新しい学校づくりについて、市内には小学校が25校、中学校が11校あり、いずれも建設時期にばらつきがあり中には築50年といった学校もある。学校の役割は、地域コミュニティの核であることや非常時の避難場所であり地域にとって大変重要な拠点となっていることから、今後何十年も先を見据えた検討作業が進んでいるもの。その結論を先取りして総合計画に盛り込むことはできないので具体的に書けるかは難しいと思っている。基本構想や総合計画は庁内の部局と調整し、種々ご意見もいただいて策定する。いずれにしても具体的な内容は実行計画でお示しをすることとなる。	
40	第4回	その他	-	-	山本	様々な産業から出てくる生産力や労働力、賃金が最終的には法人税や所得税につながり様々な施策に対して金銭という面で関わることで、この基本構想で描く将来都市像に繋がると捉えている。それが全体的にはどれぐらいの量やインパクトを持つものであるのかを検証しないと、やってる気になっているが本当に効果に繋がっているかわからなくなってしまう。今後の実行計画においてこういった流れを加味していきながら検証できれば良い。	ご提案いただいた考えを考慮しながら、実行計画策定やKPI設定に取り組みしていく。	
41	第4回	その他	-	-	曾我	農業生産者の話し合いに参加したことで、本当に当事者が切羽詰まっていた、それぞれが様々な工夫をしていることを知った。これは基本構想であり、今後の実行計画でもっと具体的にになってくと思うが、農業や水産業の現場でいるんな苦労があることや、その課題をどうしていきたいのかが書かれると良い。	ご提案いただいた考えを考慮しながら、実行計画策定に取り組みしていく。	
42	書面	その他	-	-	渡邊（清）	住民が高齢化し働き手が減少する中で一次産業を活性化することは人手の面からも難しく、いかに近代化するかがカギとなる。また、今後の地域経済を活性化する方法は、観光人口の増大による商業収益と二次産業であるものづくり、ITによる新たな産業形態の創造によって広く世界にむけアイテムを発売・販売させられる民間の力をつけること。また、それらは早いスピード感で展開する必要がある。出遅れば人口や産業は他の地域に持っていかれてしまう。 現在、小田原駅周辺の中心市街地には集合住宅が乱立しつつあり、市の内外からの流入人口が増えつつあるが、何を意味しているかを考える必要がある。第一には交通の利便性が高い点。これは首都圏へのアクセスに期待している人。若年ファミリー層には、学校があり塾も近場にあり子育てがしやすい点。そして、高齢者に於いては、日常生活がおりやすい点。これは、田舎には住み続けることが厳しいと考えているということである。過疎化地域に於いて住み慣れた場所で最後まで住み続けるのは容易ではない。交通手段や体力面で医療機関への通院が困難になり、介護サービスをうけるにも、将来介護人材が不足し今のようサービスが続かなくなる可能性も考えられる。広い面積の中で人口が減少し、高齢者割合が多くなった状況に於いては、ある程度人口を集中させる必要性が出てくる。あくまで今までの耕作形態を維持することを提唱するのか。また、市街地にも、日常生活をおくりやすい物販の仕組みが必要である。エネルギー対策や災害対策もそのような街づくりの中で人口に応じて考えていくことが求められる。10年以内のビジョン、20～25年先のビジョン、さらに50年後を想像しながら都市像を想像していくべきである。	ご提案いただいた考えを考慮しながら、実行計画策定や施策展開に取り組みしていく。	
43	書面	その他	-	-	曾我	小田原が拠点となりうるのは「マイクロツーリズム」である。小田原も観光地であるが、箱根や湯河原、熱海、南足柄、御殿場などの観光の中継地としての利点、利便性を活用できるとよい。	ご提案いただいた考えを考慮しながら、実行計画策定や施策展開に取り組みしていく。	